

田原本町住民協議会（第2回）議事録

日時	令和5年5月20日（土）9時00分から12時00分
場所	町民ホール
コーディネーター	荒井 英明氏（一般社団法人構想日本 特別研究員）
その他	参加者29名 欠席者9名

コ) コーディネーター、町) 田原本町職員、メ) 協議会メンバー

論点

- ・中央体育館 論点①施設のあり方
 論点②実施事業について
- ・さわやか交流センター 論点①施設のあり方
 論点②実施事業について
- ・ふれあいセンター 論点①施設のあり方
 論点②実施事業について

協議の流れ

① 第2回住民協議会の進め方

コ) まずは前回の振り返りを行っていきたい。前回の第1回目は、基本的に今の利用方法を廃止して、新たな方向性に向かう施設を取り上げた。今回議論する施設は既存の使用方法も含めて考えるという意見が多かったので、3施設とも共通で改善提案シートの論点の①は今後の施設のあり方について、論点の②はその施設で実施している事業について、効率的、効果的に住民のサービスを向上させるためには、どのような事業をすればよいか、という意味で実施事業についてとする。また、最後に自分ごと化シートを提出していただく。これは、施設レビュー、第1回、第2回の協議会を経験して、公共施設のあり方について、自分でできること、地域としてできること、行政が担うことをシートに記入していただく。利用者という立場と費用負担者という立場から、自分が納めた税金の使われ方に関心を持つことも自分ごと化の1つである。

② 前回の振り返りについて

コ) 事前に改善提案シートまとめを配付している。前回提出していただいた改善提案シートには、素晴らしい様々な視点での柔軟で前向きな意見が多く記載されていた。改善提案シートまとめという形で協議会メンバーの目に触れるのは一ヶ月後だが、全員で様々な考え方を共有する意味でもこの場で発言していただきたいと思う。まず、町民ホールに保健センター機能を移転することについて、大きな期待と心配される点がシートの中では多く見られた。やすらぎ体育館については、廃止で耐用年数が到来までは利用する、利用率を高める方法や受益者負担の見直しという意見があった。老人福祉センターについては、廃止で耐用年

数が到来するまでの間、様々な活用方法があるのではないかという意見をいただいた。また、老人福祉センターの機能を別の施設に移転した場合の交通の問題が心配点として挙がっていた。この3施設について深堀をしていく。改善提案シートの意見を踏まえて、町から心配点、疑問点について説明をしていただく。

町) 保健センターの駐車場の問題は、町民ホール西側の駐車場を活用することで問題なく停められると考える。

町) 保健センター機能を町民ホールに移転することで窓口の連携、手続きのワンストップ化によるサービスの向上ができるかと考える。

町) 移転については、広さの問題が一番心配されると考えるが、各事業を担当者で協議し、青垣生涯学習センターの部屋や遊びの広場の利用、事業の内容により他の公共施設や民間の施設の活用することで対応可能であると考えている。また、プライバシーの問題も町民ホールの改修を行い個人情報の保護等に配慮した場を設定することが可能と考えている。

コ) 協議会メンバーが心配していた3つのポイント、駐車場の問題、サービス向上の問題、スペースの問題について町の方から説明をしていただいた。今の説明に関する事や、別の考え方や心配点等あれば意見をいただきたい。

メ) 町民ホールに保健センター機能を移転するという議論を初回にし、様々な意見が出たが、町には保健センターにする方向性があったのではないかと不安に思っている。今後協議会では廃止という意見があった施設も、結局は廃止にならないのではないかなと思う。

コ) 次回が住民協議会の最終回になるが、協議会メンバーからいただいた意見をうまく網羅した形で報告書を作成し、その後町に提出したいと考えている。次回の住民協議会で報告書の素案を皆さんと共有したいと思っている。また、報告書を町がどのように活用していくかは次の段階であるので、決まっていることを議論しているわけではない。町民ホールについては多くの意見をいただいたが、実現に向けてハードルの高い提案も多数あり、その中で、現実的に可能性が高く、町の方でも保健センターの今後について考えていたことを踏まえ、移転するのはどうかという提案が町からあったということである。

メ) 3月18日の施設レビューでは町民ホールに保健センターを移転するという議論が無かったが、前回の協議会で突然提案があり違和感があった。ただし、町が考え、主体的にこのような方法もあるという提案について、住民協議会の意見を参考にして町が方向性を決めていくのは良い考えである。次の段階として、いつまでに、誰が、責任をもってこの事業を進めるのか。そのロードマップを教えてください。駐車場、スペースの問題については議論し検討したので分かった。

コ) 時期については、報告書として提案した後に、町の方で方向性を出すということである。この協議会の結果は、町としての最終結果ではない。

メ) 町民ホールが保健センターになるというのは確定ではないのか。

コ) そうである。

メ) 町としての意見ということか。

コ) 町として保健センター機能の移転の提案があり、住民協議会のメンバーからそれについて課題があるという意見をいただいた。住民協議会の報告書には保健センター以外のものが良いという意見もあるという内容になるかもしれない。前述のような忌憚りの無い意見をいただく場所だと考えている。関連して保健センターに関する意見はどうか。

メ) サービス向上やメリットの説明はあったが、デメリットについてはどのように対応していくのかを伺いたい。

町) 一番のデメリットはスペースが狭いことである。子どもの健診及びがん検診が保健センターに一番多く来所される事業であるが、コロナ禍で待ち時間を少なくする、密を避けるという目的で受付時間の分散化を図ったが、同じようにスペースが狭くなったとしても事業の工夫や調整することで乗り切っていけると考えている。

町) デメリットは駐車場の問題、プライバシーの問題、スペースが狭くなる問題の3点だと考えている。駐車場は西側にある駐車場をうまく使うことと、時間配分を予約制にすることで振り分けていくことで解決できると考えている。プライバシーの問題については、町民ホールの改修工事をする、役場の会議室等を活用することで適切に保護できると考えている。スペースの問題については、一番の課題と捉えており、改修工事をする中で間仕切りの仕組みを可動式にすることで解決できると考えている。

町) 現在町民ホールで各種教室等で利用しているものが、保健センターが移転してくることによって利用できなくなることがデメリットであると考えている。今の活用状況等から青垣生涯学習センター等を利用することで対応可能であると考えている。

コ) 現在の保健センターの利用者が町民ホールに移転すれば、ここが心配だという視点でもご意見をいただければと思う。

メ) 私は狂犬病の注射でしか利用したことが無い。タイムスケジュールを調整することについては、SNSを活用すれば時間帯等をずらすことができると良いと考える。

コ) 続いてやすらぎ体育館の振り返りを行う。やすらぎ体育館については、耐用年数までは活用をしていくという意見が大半であった。様々な新たな手法での活用方法、管理体制の見直しの必要性などの意見であったが、これ以外にも付け加える意見があればいただきたい。意見等が無ければ改善提案シートに記載された内容を基礎にして報告書にまとめていく。続いて老人福祉センターについて振り返りを行う。老人福祉センターも耐用年数までは新たなソフト事業を実施する、あるいはやすらぎ公園等の周辺施設との一体的な利活用を考える、受益者負担の適正化等の意見、また、他の施設へ事業を移転した場合の交通の課題があると意見をいただいた。町の方から交通の課題について説明をしていただく。

町) 現在実施しているタクシーの初乗り料金の助成であるタワラモトタクシーに加えて、コミュニティバス、予約運行型のデマンドタクシーの2つについて現在検討を進めているところである。

コ) コミュニティバスとデマンドタクシーの仕組みの説明をお願いします。

町) 田原本町において、公共交通は鉄道とタクシーだけであり不便な状況が続いている。

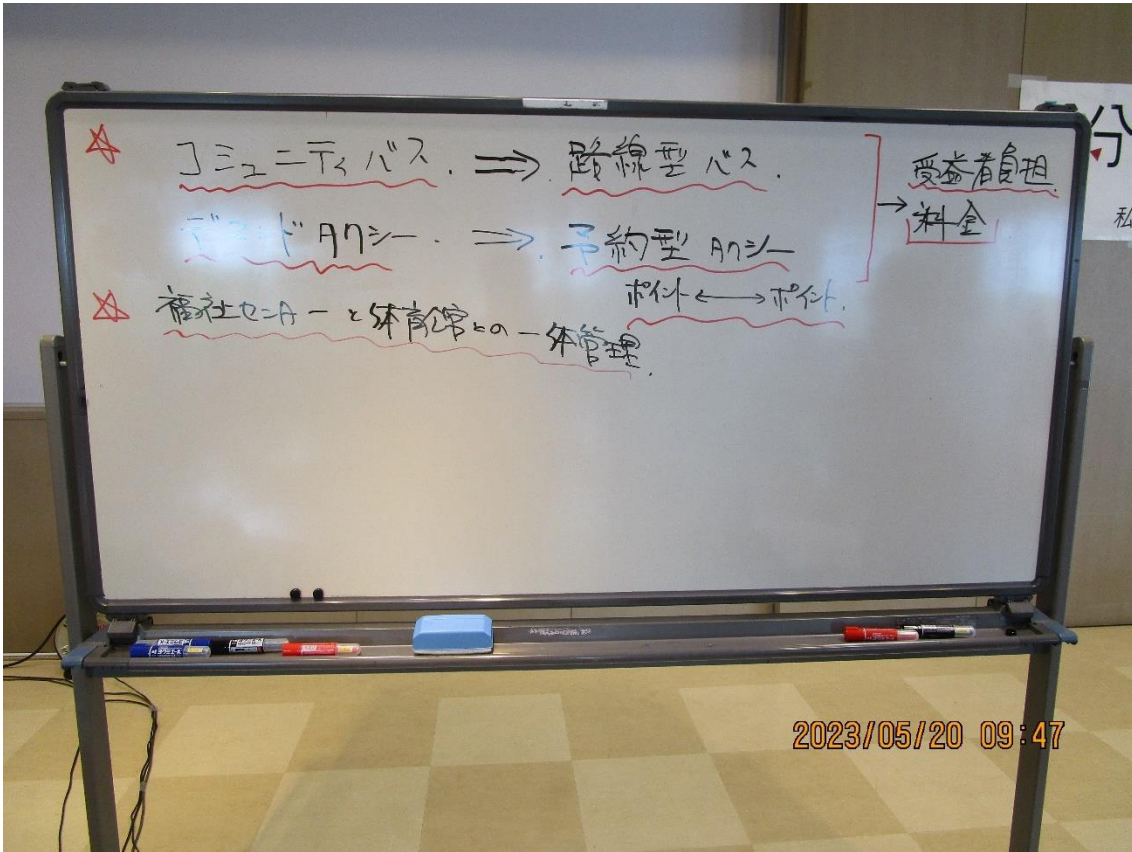
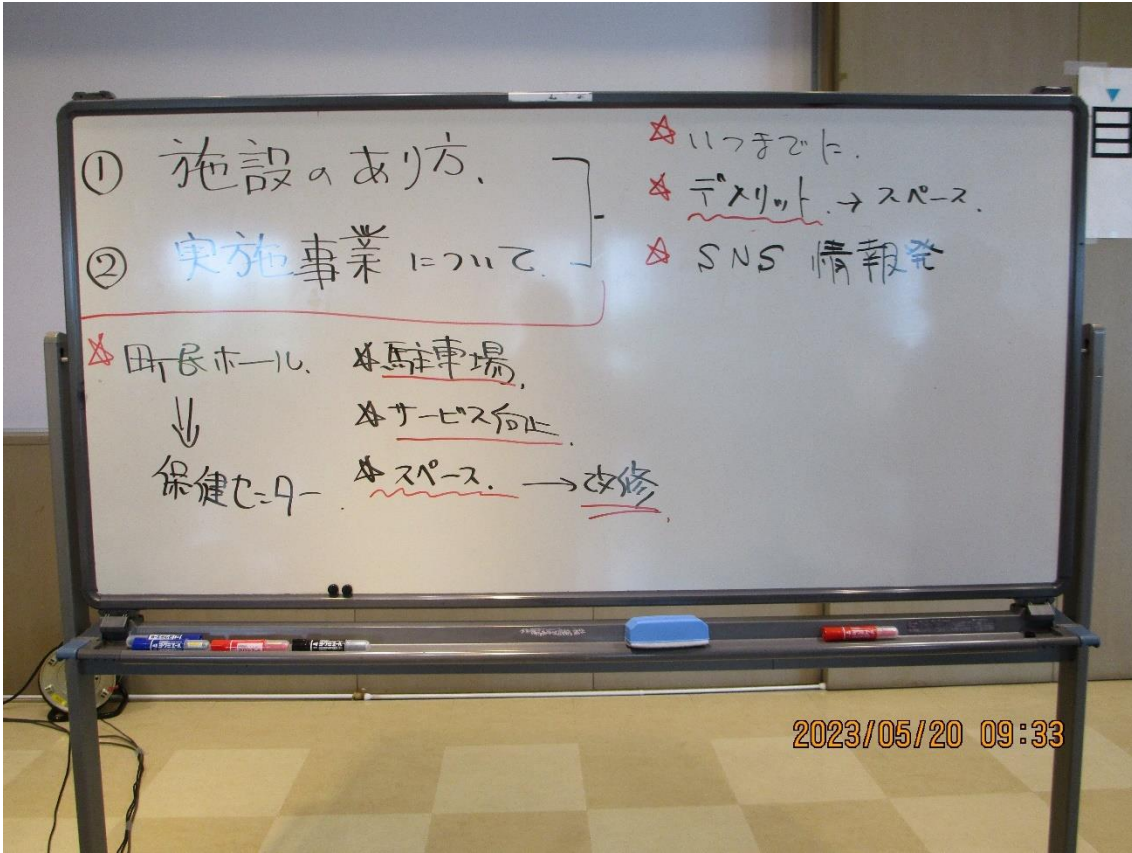
今年度秋以降の予定であるが、コミュニティバスとデマンドタクシーの導入に向けて議会の同意も得て予算化している。コミュニティバスはいわゆる普通のバス、バス停を定時に発着する定時定路線型のバスと言われているものである。一方のデマンドタクシーは、数年前ももたろう号を本町も運行をしていた。これは、コミュニティバスよりも多くのバス停を用意し、1時間前程度を想定しているが、指定の時間に予約をし、その時間に迎えに来てもらう。そこからまた別の場所まで行く、ポイントからポイントまで運行するのがデマンドタクシーである。コミュニティバスが何時何分という形で運行しているのに対して、デマンドタクシーは、ポイントポイントで、住民の方々の需要に応じて運行するという形である。本年度実証実験として運行し、住民からの意見を踏まえて、拡大をしていく、あるいはどちらかに統合していく、そのような形で進めていきたいと考えている。老人福祉センターについても交通の問題があるかと思うが、利便性の高い公共交通空間を作っていきたいと考えている。

メ) 老人福祉センターとやすらぎ体育館はほぼ隣接している状態であるので、部署の垣根を越えて体育館の鍵の開閉やトイレの清掃を老人福祉センターの方で担当することは出来ないのか。部署間の交流が出来れば、体育館が閉鎖されるまでは有意義に使っていただき、その利用者が帰りに老人福祉センターのお風呂に入って帰れるようなことが出来るのではないかと考える。また、検討されている公共交通について、基本的な料金はどのようなのか。

町) 一体的に管理するというのはアイデアとしてありがたい。老人福祉センターについては民間事業者による指定管理、一方で体育館については生涯教育課の職員が直営で運営し、シルバー人材センターに鍵の開閉を業務委託している。提案いただいたとおり指定管理の委託の公募をするときに、鍵の開閉も盛り込むような形が出来れば、それは効率化につながると考えるので、検討する余地は充分にある。公共交通の料金については、バス協会の方、タクシー協会の方と地域公共交通活性化協議会を設けてその中で料金についても議論も進めているところである。特にタクシーの料金は難しく、通常のタクシー事業者が今町内に4社ある。この料金とデマンドタクシーの料金が、近くなりすぎると民業圧迫になってしまうので、住民にとっては利用しやすい料金にしないでいけない。通常のタクシーよりは安くするが、その料金が幾らになるかという点を、現在議論を進めているところである。

コ) 奥が深い、良い質問である。付け加えると、この料金は、安くすればするだけ、別の方の負担が増える。通常のタクシーと同じ料金では住民は利用せず、安くすればタクシー事業者がその補填を求めてくる。非常にこのバランスが難しい。

ホワイトボードの写真



② 中央体育館について

コ) 中央体育館は、施設レビューの中では、存続して高度な内容で利活用をするという意見をいただき、その中で国体の会場としても利用できるという内容もあった。これらを踏まえて町の方から説明をしていただく。

町) 中央体育館の説明の前に、前回意見をいただいた件に対して回答させていただく。特にトイレが不衛生な状態であるという点については、委託先のシルバー人材センターに見廻りの強化と汚れがひどい場合の清掃を徹底するという調整をした。今後は気持ちよく使用していただけるような環境整備を努めたいと考えている。それでは、中央体育館の振り返りについて、説明をさせていただく。中央体育館は、体育館機能の他に、テニスコート、健民運動場グラウンド、スケートボードパークがあり総合的なスポーツの拠点となる機能がある。一般的な貸館事業の他に、各種大会や、町が実施する教室事業等で利用をしている。利用状況についても、全体で8割弱の稼働率である。施設面はやすらぎ体育館と同等であるが、開館後約40年経過しており、施設の老朽化が進行している状況である。年間の維持管理経費は、人件費含めて、約2500万円かかっている。令和13年度に奈良県で開催予定の国体を中央体育館で実施することを想定している。施設の今後の方針だが、前回の施設レビューでは現状維持、もしくは見直しが必要であると意見をいただいた。町としては今後もスポーツの拠点として、またやすらぎ体育館の受け皿として機能する施設として、維持していく方針である。それに伴い課題の解決策であるが、国体の競技会場地を前提としてではあるが、施設改修を行っていく予定である。会場地に決定せずとも、体育施設を今後も継続して、施設を維持運営していく必要があるので、ある程度の施設改修が必要だという認識を持っている。また、民間の力を利活用してはどうかという意見については、現在直営で運営をしているが、指定管理等の民間の力を活用した運営の検討も必要だと認識している。維持管理費を少しでも賄えるような形での受益者負担の適正化も認識している。今後は健康分野と連携した事業の実施が求められているので、取り組んで参りたいと考えている。

コ) 今の説明を聞いて、中央体育館の今後のあり方について意見はあるか。

メ) 中央体育館は、やすらぎ体育館を閉鎖することによる体育館機能をどれだけ移設出来るかがポイントであると考えている。活用については、移動手段の連携等を具体的にしていく必要があると考える。その他は賛成である。

メ) 良い体育館だと考えるので、使用しないのは勿体ないと思うので、存続の方向でよいと考える。

コ) やすらぎ体育館を廃止した場合は実施していた事業を、中央体育館を活用していくことになると思うが、その点を踏まえて意見があればいただきたい。

メ) 中央体育館は交通の利便性が一番悪いと思う。国体やインターハイの時はシャトルバスが常時出ていた。今は学生がバドミントンの試合で体育館へ行くのに汗だくになり歩いているのをよく見かける。利便性を高めたら利用率が高くなると考える。また、国体やインタ

一ハイの施設ではサブ体育館がある。特にバドミントンの場合は風が影響するので、サブ体育館についても検討した方が良いと考える。

コ) ご指摘のとおり、自分も施設レビュー時に中央体育館を見学し、国体を実施するならサブ体育館や空調の要求が出るのではと質問した。非常に難しい問題である。やすらぎ体育館のような住民に近い利用の体育館と中央体育館のような国体を実施する高機能な体育館を両立させるためにどうすればよいかは今後の検討が必要であると考え。

メ) 事業の内容として、スポーツ分野だけでなく体力づくりや健康分野にも広げていく必要があると考える。そのために、指定管理や民間の力を活用しサービスの充実を図っていかばもっと良い体育館の事業内容になると考える。

コ) 役場内の健康分野との連携ではなく、民間活力の活用で事業を実施するというのか。

メ) そうである。幅広い世代に使用してもらえると考える。

コ) 中央体育館の活用方法について、健康分野事業としての活用は今後のサービス向上について素晴らしい意見である。他に住民のためになる考えはないか。

メ) 中央体育館は改修するのか、新築するのか。

町) 改修方法については現状のまま活用するのか、一度解体して建替えるかの二つの方法がある。具体的にどちらの手法で改修するかは決まっていないが、費用面や工期で考えると現状の体育館を活用した形での改修が想定されると考えている。

メ) 国体を誘致するなら最新の設備でないと難しいのではないか。先ほどのサブ体育館でもう一つの体育館の機能を持たせるといった方法もあると思う。中央体育館は駅から遠いので大会の会場として使うのであれば、大会期間中はバス運営など交通の手段を考えないといけない。そこが具体的でない中で施設の改修の話だけ進めても意味がないと考える。例えば民間に運営を任せて体力づくり等のイベントや駐車場でのバザー、体育館の中を広くすれば芸能人を招いてのコンサート等、利便性が増せば町の収入も増えると考えるので、総合的に考えていただきたい。

町) スポーツ施設に限らず、多目的な利用に関しては総合的な視点を持って考えていくべきであり、併せて今後の施設の改修もどうあるべきか考えていく必要がある。また、立地条件によるアクセスの悪さについては、コミュニティバスやデマンドタクシーといった公共交通を活用したり、大会を誘致する際は臨時的にバスを走らせる等で住民の足の確保を図っていきたいと考えている。

コ) 民間を活用した健康分野での事業や多目的に体育館を活用するというのは住民ならではの発想である。体育館には観客席が何席あるのか。

町) 564席である。

コ) やはり500席を超える観客席のある体育館は貴重であるので、多目的に活用するという意見は住民協議会ならではと思うので、今後検討していただきたい。

メ) テニスコートについて、孫のテニスの試合を観戦しに行ったが観客席が無く隣の公園に座り孫を探す、網が張ってあり全然見えなかった。観客席があるのは体育館の中だけか。

テニスコートを改修するなら観客席で周囲を見れるようにしてほしい。

町) テニスコートにはご指摘とおり観客席は無く、ボールが飛んできて危ないことから網を張っているところである、今後改修する際にテニスコートも含むとなれば一般の方が観戦できる形がとれないか研究して参りたい。

メ) 体育館ができたとき、夜7時から9時の間、役場の係員が1人いて、自由に利用することができた。ビリヤードやソフトバレー、カーリング等様々なことが出来た。

町) 一般開放について、少しでもスポーツに興味を持ってもらうきっかけとして事業化できるかを今後検討していきたい。

メ) 昔は町民体育大会という毎年体育の日に各小学校区対抗で行う運動会があったと記憶しているが、今はそのような事業は無くなったのか。町民全体の運動会をすることによって世代間の交流や、認知度を上げることも可能であると思うので、先ほどから議論しているコミュニティバスやタワラモトタクシーを利用し住民が集まることで体育館が活性化して利用頻度も上がると考える。また、意見箱等で実施してほしい事業などを募集するのもよいと考えるが、どうか。

町) 過去には町民体育大会を実施していたが現在は体育の日に住民全体のイベントは実施していない。大人も子どもも一緒にスポーツができるのはとても素晴らしいことだと考えるので事業を復活できるかは約束しかねるが、貴重な意見として引き続き町としても検討していきたい。

メ) 中央体育館は若草国体の時にバドミントンの会場として実際に使用されている。国体で利用することが目的で建てられた体育館という形で出来ているので、県内や全国の人からも立派な良い施設であると伺っており、次期の国体でも利用できるような施設になってほしいと思う。そのためには町内での認知度を上げて、奈良で田原本で実施してもらえよう住民で国体を盛り上げていく形に持って行けたらいいのではと思う。

コ) 非常に素晴らしい意見である。体育館に求められる機能は大きく3つであり、1つ目は大会等でスポーツ選手が利用するための機能、2つ目は健康づくりで活用するための機能、3つ目は住民がスポーツに親しむきっかけを作るための機能である。住民がスポーツに親しむきっかけの入り口としての事業が町民体育大会はどうかという提案であり、やはり体育館の活用方法が1つのポイントだと思う。また、町からトップアスリートを育成することも中央体育館の役割であると思うので、いろんな視点で事業を展開するのが重要であると考え。

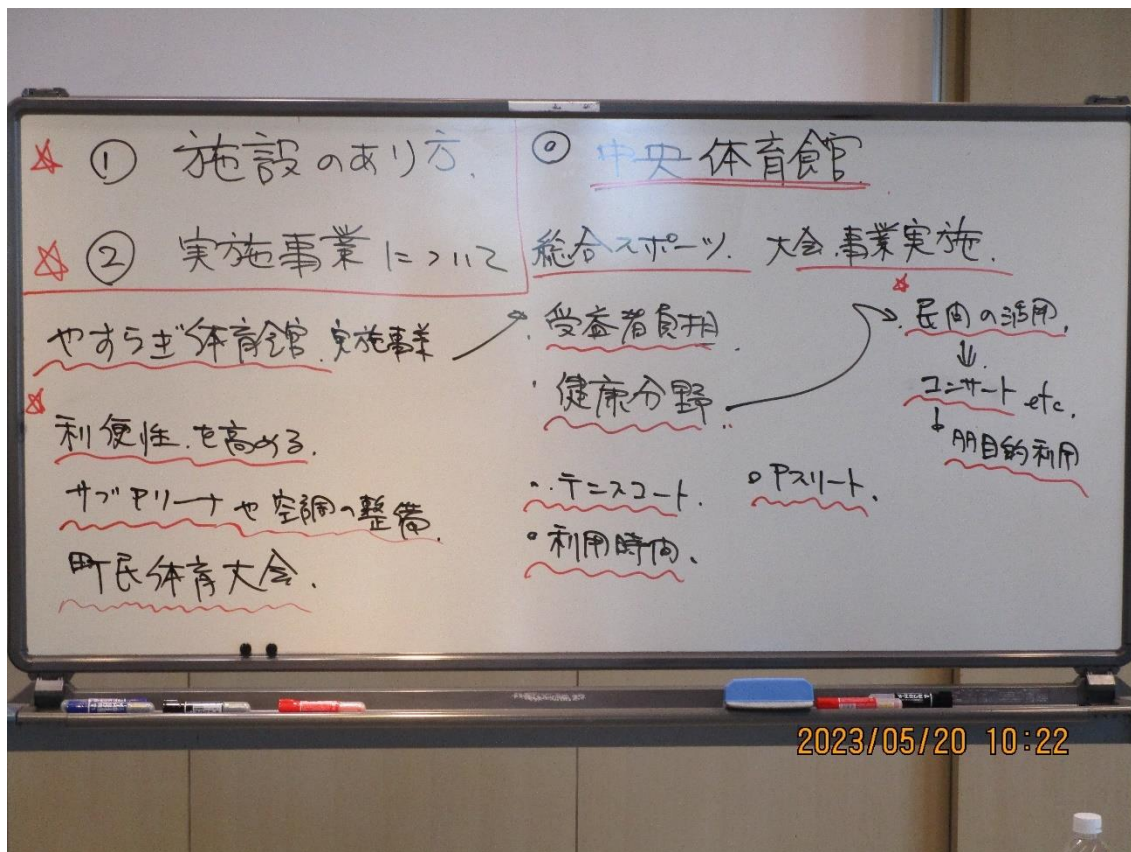
メ) 中学生の頃テニス部であったが、試合が見つらく体育館の2階へ上って眺めていた。その時に感じたのが、階段のタイルが破損しており雨天時は滑りやすく危険な個所が多く、また、テニスコート内のベンチ上部にある屋根が破れていたり修繕の対象となっていないのかという印象を受けたが、どうか。

町) テニスをされる方が安全快適に利用してもらえ環境づくりを進めて参りたいと思う。先ほどの意見と同様に、コート内が見つらい件については今後の改修の際にどのような形

で対応できるか検討して参りたい。

コ) 住民の方の期待が大きいと思うのでよろしくお願ひしたいと思う。

ホワイトボードの写真



③ さわやか交流センターについて

コ) さわやか交流センターは、前回の施設レビューの外部評価者の視点や住民協議会メンバーからいただいた意見をベースに深堀をしていきたいと思う。皆さんからいただいた意見は判断が難しい答えが多かった。施設のあり方をどうするかという視点と、実施している事業が身近な事業でないこともありネガティブな意見が多かったように見受けられる。このような前回の意見を踏まえて、町の担当から意見を聞きたいと思う。

町) 前回の施設レビューでは、さわやか交流センターは、利用率が低いという意見や、ふれあいセンターとさわやか交流センターの区別がつきづらい、また、教室の内容を見直して、

地域交流や、相談窓口に特化すべき、ふれあいセンターに一本化すべき、廃止すべきなどの多数の意見をいただいた。この施設自体は、利用率は他の施設に比べて低いものとなっている。また、施設自体の認知度も、他の施設に比べて低いと感じている。ただ、さわやか交流センターについては、隣保館の機能も有している。隣保館は、地域社会全体の中で、福祉の向上、人権啓発の住民交流の拠点となる開かれたコミュニティセンターとしての生活上の各種相談事業、人権課題の解決のための各種事業を総合的に行うことを目的としている施設である。そのような機能を有している施設であるので、町としてはこの施設を廃止ではなく、現行の教室等の事業規模を縮小し、それに伴い空いた部屋等は、隣接するふれあいセンターとの一体的な活動の場として利用し、施設自体の稼働率を上げる方向で進めてはどうかと考えている。なお、縮小した教室等の事業については、同様の事業を実施している青垣生涯学習センターに集約する方向で考えている。

コ) 町から、利用率は低いが今後の利用率向上を目指し地域コミュニティ施設としての機能は活用していく考えだが、この考えを踏まえて、協議会メンバーの意見を改めていただきたい。

メ) 協議会にあたり先日施設を見学させていただいた。平成 15 年から 10 年間はふれあいセンターの会議で年数回訪問していた。最近では週 2 回ほど入浴サービスを利用しているが、通算 15 年間でさわやか交流センターの存在を知らなかった、入口もわからなかった。町民の認知度がとても低い。昔の隣保館ということだが、施設のあり方としては国からの補助金があるから維持するが、ふれあいセンターと同じ入口にし、2つの施設を一体化した名称を付けることは出来ないか。補助金の問題で、別の名称でないと無理かもしれないが一緒にする方がよいと考える。また、保健センターが町民ホールへ移転するのはデメリットが無いということであるが、スペースを考えると、子どもやボランティアの方が集まると狭いと思うので、保健センターの一部の事業をさわやか交流センターやふれあいセンターへ持っていく、個別の面談を実施する。ふれあいセンターの 2 階には遊具がたくさんあるのでそこで待ち時間を過ごしてもらい、帰るときに親子でお風呂に入って帰る等、そのような形で一体活用することが出来るかと考えるので、もっと住民にさわやか交流センターを知っていただきたいと見学をして思った。

コ) 個別の施設の議論をして、立体的にいくつかの施設を統合して活用する考えは素晴らしいと思う。保健センターの機能が移転すれば、子どもに関する事業の一部を町民ホールと併せてふれあいセンターでも実施できないか、一体的に活用できないかの議論の中で個別の施設のみに着目するのではなく立体的な意見がいただけるとありがたい。

メ) アートフラワー等の教室を増やすことは出来るのか。

コ) 現在実施している事業を再検討し、利用率が低い事業を新たな事業に変更するという提案だと思うがどうか。

町) 教室は、同様の教室を青垣生涯学習センターで実施しているのと、現状でさわやか交流センターで実施している事業も利用者の固定化が多くなっており、新たに利用される方が

いない、周知はしているが、減少傾向であることから、一度事業を見直すことを検討している。

メ) 自分も以前にさわやか交流センターとふれあいセンターに見学に行ったが、さわやか交流センターの案内が無く、場所が分からず、裏側に回ると建物の入口が分かった。ふれあいセンターで係員に話を伺うとさわやか交流センターの事務はふれあいセンターの一部屋で行われている。さわやか交流センターは補助金をもらっているということなので、人権的な問題に視点をもってもらい、その他の教室については他の公共施設でも出来るのではないかと思う。

コ) 元々一体利用が前提で作られた施設というイメージがあるが、特定の地域のコミュニティ施設としての機能を有していることから、住民に向けてのアピールは積極的には実施してこなかった。今後、一体的な活用を考えるのであれば、実施している事業のアナウンスを積極的に行う必要があると考える。

メ) 見学に行ってきたが、施設の中は綺麗である。ところが、外壁は傷んでおり塗装の間からもカビが生えている状況で、防水も同じような状況であると思う。中が綺麗なだけにもったいないと思う。補助金の関係で別の用途に供されていると思うが、やはりふれあいセンターと一体で利用するのがベストであると思う。

コ) 前回の施設レビュー時には直感的な判断が多かったと思うが、施設の見学や様々な方の意見を聞き、考え方を整理すると一体利用するという形になってくると思う。前回は廃止という意見であったが、今回の議論も踏まえて改めて改善提案シートを記入していただきたい。

メ) 稼働率が落ちた原因について考えられることはあるのか、明らかに稼働率が低く、上がる可能性があるのか、今後下がっていくしかないのか、どのように町は捉えているのか。

町) 教室等については新たな事業を行ってなく、かつ利用される方も固定化しており、その方達の年齢とともに、利用者が減っている状況であると推測している。今後は、少し内容等も検討して、集約できるものは集約する方向で進めて参りたいと考えている。

コ) 利用率が向上するかどうかを今後何年か、注視をしていただきたいと思う。利用率を上げるのは大変であり、どのように上がっていくのかを協議会に参加された皆さんに見続けていただきたいと思う。関心を持ってくれる住民がいると利用率が上がるかもしれない。逆に、関心を持たなくなると下がってしまう。これが住民と行政の関係だと思う。皆さんが利用率の向上等に関心を持って、行政サイドに見ているとアピールすることが、税金の使い道を効率化する1つのポイントだと思うので、今後注目をしていただきたい。

メ) ふれあいセンターの入口で、入館者に一生懸命にさわやか交流センターで実施される教室について募集をかけておられるので利用者が増えているのではと思う。ただ、新規にさわやか交流センターで教室を募集するよりも、現在青垣生涯学習センターで実施している教室で、少人数で移動も容易な教室は、さわやか交流センターの教室を利用し、逆に、青垣生涯学習センターには図書館もあるので、子どもの教室を新規に考えるというような形で機

能移転すればよいと思う。

コ) 青垣生涯学習センターも含めて、立体的に他の施設でどのように役割分担をしていくかという提案である。さわやか交流センターの利用率の低さは特定の地域のコミュニティ機能を向上するための事業を実施していたのかもしれない。青垣生涯学習センターで実施しているのは全町民が対象の事業で施設も新しく利用率が高い。さわやか交流センターも少し機能を拡大解釈して、町民全体のコミュニティ活動の場としての事業展開をすれば、提案のあったように利用率が向上するかもしれない。住民の皆さんの柔軟な発想が大事だと思うので、様々な視点でご意見をいただければと思う。

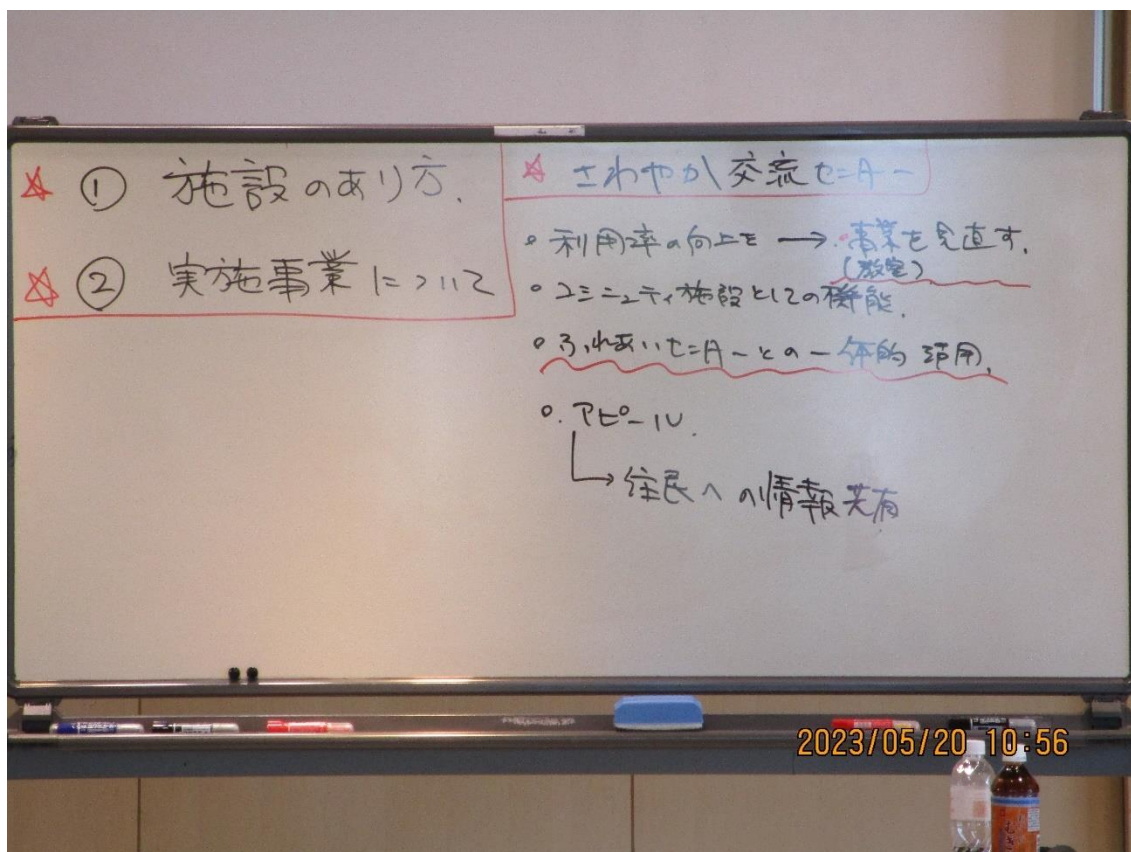
メ) 住民協議会に参加して、さわやか交流センターとふれあいセンターの存在を知った。この2施設の紹介や募集方法を町民全体に周知する必要があるのではと思う。

コ) 存在そのものを知らないのであれば、情報共有だけで利用率が上がるかもしれない。

メ) 今は広報を見る機会が増えたので、施設や教室について知ることが出来ている。もっと効率的な説明や募集方法を考えれば利用が多くなると思う。

コ) 行政からの情報提供は届いてるのが前提であり、個人的に情報を取得しないと分からないことが多々ある。住民同士のコミュニティで情報を伝えるというのも一つの手段だと思う。住民が第2の発信者になっていただきご自身のSNSなどで周知してもらうことが、大きな意味での自分ごと化である。

ホワイトボードの写真



④ ふれあいセンターについて

コ) ふれあいセンターは前回の施設レビューでは非常に前向きなご意見を皆さんからいただいた。どちらかという、今回の公共施設の見直しの中で、廃止される可能性がある施設の機能を移していく。さわやか交流センターと一体的に利用するなど、今回の公共施設の見直しの中で、ふれあいセンターには、事業の受け皿としての役割があるという意見があった。その中で、施設のあり方については、受益者負担を求めたらどうか、管理費について見直したらどうか。さらに指定管理者をもっと広く募集したらどうかなど、具体的なご意見や、あるいは実施の事業については、子どもから高齢者までのふれあいができる機能がある施設は非常にありがたく、もっと活用したいという意見もあった。前回の施設レビューの意見を踏まえて、町の担当から、追加の説明をお願いしたい。

町) 施設レビューのまとめの11ページ、12ページにあるが、メンバーの皆さんからいただいた意見の多くは一旦現状維持ということと、受益者負担の適正化ということで、入浴料などの利用料の徴収を考えてはどうかというご意見をいただいた。公共施設でも、収益をしっかりと考えてやっていくことを、改めて町の方でもしっかりと検討していかなければならない時期に来ている。ふれあいセンターは、町の東寄りに位置しているが、町に在住であれば、誰でも利用できる使いやすい施設である。そのような強みを生かしながら、今後も満足度を高めるための事業内容の見直しや、工夫、新たな何かに挑戦するなど、利用者の方との双方向のコミュニケーションを大切にしながら、親しみやすい身近な施設として、運用していきたいと考えている。

コ) 説明があった後段の利用者の満足度をさらに向上させることがやはり最も大きなポイントだと思う。先ほども少し意見をいただいたが、子どもの事業など様々な事業をさらにここで実施することによって満足度が向上する。あるいは現在実施している事業でもやり方や視点を変えることによって、利用者の満足度が上がるのではないかということだと思う。具体的にどんなことが可能か、どうすれば施設の利用率が高まり、利用者の満足度が向上するか。もう一つの視点から言えば、ふれあいセンターがあることによって、今は利用していない方も、町民としての安心感が得られることも、町民の満足度の一つだと思うので、そうした意味も含めて、町民全体での満足度が高まるような、施設の実施事業や施設のあり方についてご意見をいただきたい。

メ) 先週、自治会の会合があり、住民協議会に参加していることを話した。ふれあいセンターは、一部の地域だけの方が利用しているのではないかという人がほぼ大半だった。町はもう少しアピールしないといけない。私もずっと住んでいるが、住民協議会が始まるまで、同様の認識を持っていた。

コ) 行政も一生懸命やってもらうが、やはり町民もみんなでやっていく。良い施設があることをみんなで広めていくことで、いつかふれあいセンターを含めて、田原本町の公共施設の利用者が非常に増えて、大変だというような嬉しい叫びが聞こえるように広めていく必要

があると思う。

メ) 確かに利用者の偏りがあるかなと思う。子どもの地域別の利用率で、利用者の4分の1が東の地域とのことであった。東の地域に住んでいる子どもは非常に少ないと思う。全体の4分の1であれば地域別で見たら平等であると認識したが、よく考えると100%の子どもが使っているぐらいの利用率ではないか。だから西の方など他の地域にもふれあいセンターのような施設があったら良いと思った。

コ) 利用者の地区別、月別の分析などを行っているか。

町) 令和3年度の児童館の入館者数の実人数は18歳までの入館者数の実人数の合計が、約200名であった。うち、東校区の児童が80名であった。

コ) やはり子どもの場合は、近いところを利用する傾向が多いので、町の東側の方の利用者が多いのはおそらく事実だと思う。この課題の解決策は提案があったように、この施設と同等の機能を持つ施設を各小学校区に作るか。あるいは別の公共施設で同様の事業ができないかを探る必要があると思う。大人は何らかの形で利用すること、アクセスすることは可能だが、小さい子どもと子育て中の特に若い母親は、利用することは難しいかもしれない。そのため、同じ機能のサービスを別の公共施設で実施するのは一つの解決方法かもしれない。施設をこれから作るのはかなり大変なので、ソフト機能を他の施設でも実施するのは一つの方法かもしれない。

町) 前回、ふれあいセンターの児童館を利用している子どもは東校区の方がほとんどではないかという質問があった。東校区の子どもは、児童館に入館している実人数の中では約4割であると回答したと思うが、ふれあいセンターの利用全体としては、東校区に大半が偏っているのではなく、令和3年度だけの人数になるが、4割程度と説明した。

コ) 現在、子育て中の方はおられるか。利用したことはあるか。

メ) ない。

コ) 存在を知らなかった、エリアが遠いなど、使わなかった理由はあるのか。

メ) 例えば平日に子どもを空いている時間に連れて行くことができなかった。土日の場合は、家族と他のところに出かけたので、ふれあいセンターの児童館で行われているイベントに行ったことがない。広報で行事は見たことがあるが、足を運ぼうとはならなかった。

コ) 子どもと利用したことがある方はいるか。実際に利用して、このエリアはどうか。

メ) 居住地が町の西側でふれあいセンターの反対側になるので、自家用車がないと利用できなかった。子どもが小さい頃に、共働きだったため、土日に仕事が入った時に、保育園に預けられず、高齢の祖父母に頼んだことがある。当時、子どもが2人で、祖父母は見るのが大変だったと思うが、ふれあいセンターのお風呂に一緒に入ってきており、本当に助かった。いろんなニーズを踏まえて、こういったあり方の施設が欲しいといった意見をもっと聴取し、子育て支援を重視すると、これからの子育て世代の方もありがたいと思う。

コ) 他に利用された方で別の視点はありますか。

メ) 児童館や風呂で声を掛けたりし、大体肌で感じるのは、案外、近辺の方は少ない。お父

さんがコロナで自宅ということもあったと思うが、西の端の方から車で来ている人の方が多かった。利用者を見ていると、距離などには関係ない気がする。

コ) ふれあいセンターでは、多目的で多機能のサービスを実施しているため、付近の方が利用しやすいサービスと、全町民が利用しやすいサービスと両方が提供されていると思う。町の西側に在住の方でも、子どもと祖父母などであれば利用でき、また近くの子どもたちが自分で通って児童館として利用できる。その意味では、かなりグレードの高いサービスをしている施設だと思う。最初に副町長から話のあった、住民サービスを施設の配置を見直してさらに高めるために、この協議会の皆さんから、今度はこういう視点を持って取り組めば、さらに利用者の満足度及び町民全体の満足度が上がることを改善提案シートに記入されたい。高齢者の入浴の問題も踏まえて、記入していただければと思う。論点の1は施設のあり方、論点の2は実施事業について、特に実施事業については、さらに利用者、町民の満足度を上げる手法を検討されたい。

ホワイトボードの写真

